

米松デイメンションランバー入荷増

インターフォー

虫害によるSPF製材の生産減に対応

カナダBC州を拠点とする製材大手のインターフォー（BC州バンクーバー、ダンカン・テイビス社長CEO）が、日本向け米松のデイメンションランバーの取り扱いを強化する。ここ十数年、BC州を中心にマウンテンパインピートルによるロジポールパイ立木の被害が顕著になっており、SPF製材生産量は減少する見通しだ。米松のデイメンションランバーは供給不足に対する備えとなることに加え、強度などの品質の高さと、価格の安定性で優位性があり、住宅会社にとっては差別化の切り口にもなると期待される。

現状のBC州内陸部のAAC（州有林年間許容伐採水準）は6500万立方尺規模だが、虫害被害を食い止めるための過伐採を行ったため、14年度以降の伐採量はその反動で4000万立方尺規模まで減少する見通しだ。

だが、米松にはこうした問題がないことに加え、SPF製材に課税されている輸入関税4・8%が適用されないため、同価格である「米松のデイメンションランバーは高品質

その分、価格面でメリットが生じる。性能面から見ても、強度に優れ、曲がりも少ないという長所があり、SPFに比べて価格も安定している。

同社は4月、米松のデイメンションランバー（Jグレード）の取り扱いを試験的に開始。5月には商社やコンポーネント工場を対象に検品会を実施した。

「米松のデイメンションランバーは高品質のものを厳選しており、見た目もきれい。SPFに比べて品質のブレも少ない」とインターフォージャパンの岩見尚浩支社長は話している。トライアルの成功を経て、7月積みから本格的に取り扱う。

カナダ製材大手トルコ・インダストリーズ

の日本総代理店を務めるタイガーインターナショナル（東京都、鎌田統社長）も米松のデイメンションランバーの取り扱い増について検討中だ。

「林相の変化で、米松の伐採が増えていく。また、BC州内陸産の米松は目細で強度もあり、品質面では申し分ない」（鎌田社長）。今後、国内市場のマーケティングを行ったうえで、同材の取り扱いについて決定する方針だ。